

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：32677

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2012～2015

課題番号：24402033

研究課題名(和文) 移民のメディア生産とメディア利用に関する国際比較 - 在外ブラジル人と在日日系人

研究課題名(英文) An international comparative analysis about the production and use of the media by migrants - The case of Brazilians living abroad and Nikkeijin living in Brazil

研究代表者

イシ アンジェロ (Ishi, Angelo)

武蔵大学・社会学部・教授

研究者番号：20386353

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の最大の成果は、新たなディアスポラとして注目される、日本および欧米諸国に在住するブラジル出身の移民によるメディアの現状が把握できたことである。さらには、世界最大の日系移民集団が在住するブラジルにおいて新興メディアの手がけ人に聞き取りを行い、日系移民のメディア業界の再編を捉えた。他方、在日ブラジル人のコミュニティ・リーダーにグループ・インタビューを実施し、メディアの活用をめぐるジレンマやメディア業界の改善に向けた貴重な提言をいただいた。

在外ブラジル移民作家の初の世界大会を参与観察したことや、各国のブラジル移民の作品を上映する初の国際映像祭の実現に協力できたことも特筆に値する。

研究成果の概要(英文)：The main achievement of this research project is that we succeeded in collecting comprehensive data about the media produced by Brazilian migrants who live in Japan, Europe, USA and Australia, who constitute what we call a "new diaspora". We also interviewed the owners of new media enterprises by Japanese-Brazilians, enabling us to capture the restructuring of these migrants' media market. Meanwhile, we did a group interview with some of the most renowned leaders of the Brazilian migrants' community in Japan, and heard from them the dilemmas regarding the use of media, as well as their suggestions to improve the existing migrants' media.

Last but not least, we did participant observation at the very first worldwide meeting of Brazilian diasporic writers, and also hosted the first video festival held in Japan with films produced by Brazilian migrants living all over the world.

研究分野：移民研究、国際社会学、メディア社会学

 キーワード：移民研究 在外ブラジル人 在日ブラジル人 日系ブラジル人 メディア ディアスポラ エスニック
 ・メディア 新聞

1. 研究開始当初の背景

1980年代以降に顕在化したブラジルから日本への移住現象については多数の研究が蓄積されてきたが、先行研究では少なくとも2点において限界が見られた。第1に、移民が創るメディアの実態と役割について詳述した研究が不足していた。次に、ブラジルと日本という二カ国間の歴史的・経済的関係を強調するあまり、実は同時期に多くのブラジル移民が日本以外の国々に離散したことの意味と意義が十分に吟味されていなかった。他方、在日ブラジル人メディアについては日本国内の他のエスニック集団との比較はなされてきたが、他の国に移住したいいわゆる「在外ブラジル人」のメディアとの比較は皆無に等しかった。

我々は日伯両国において日系移民による「エスニック・メディア」について継続的な共同調査および単独での調査を重ねてきた。その過程で、リーマン・ショックに続く経済・雇用危機が各国のエスニック・メディアに壊滅的な打撃を与えたという事実（例えば日本のブラジル系新聞は全滅した）や、東日本大震災後に情報不足ゆえに在日ブラジル人が混乱したことから、あらためてこのメディアが果たす役割の重要性を確認した。また大震災を機に、経営難が深まり存亡が危惧されるブラジルの日系新聞が貴重な情報源として機能し、その存在意義が再び注目された点にも注目した。これまで蓄積した業績と問題意識から、我々はエスニック・メディアの国際比較の意義を確信した。

2. 研究の目的

本研究の主たる目的は新たなディアスポラとして注目される、日本および欧米諸国に在住するブラジル出身の移民によるメディアの現状把握と、メディアの生産・活用法に関する国際比較であった。さらには、世界最大の日系移民集団であるブラジル在住の日系移民が生産するメディアの実態把握と、移民によるメディアの活用法にも着目した。

日本、米国、英国、伯国という居住国の違いが移民によるメディアの生産・利用といかに関連するかについて、各国でのフィールドワークを通して解明した。移民の個人・団体が政治・経済・文化活動でメディアをいかに活用しているか、それによっていかなる言論空間・公共空間が形成されているかに注目した。メディアというレンズを介して「在外ブラジル人」アイデンティティの創成と日系移民社会の転換期を同時に記録・分析した。在外ブラジル系メディアの基礎資料として活用され得る「総目録」の作成も目的とした。

3. 研究の方法

本研究では各国でのブラジル系メディアの現物や基礎データの収集と同時に、その生産者および活用者に対する聞き取り調査が中心となった。よって研究方法は次の4点に分けられた。日本および欧米諸国のブラジル系メディアの実態把握と現物収集。代表的な媒体の本社を訪れ、経営陣や編集部員への聞き取り調査を実施。在伯の日系メディアについては、サンパウロ市の各紙で聞き取りを行って最新の動向を把握。各国において、生産者であると同時にメディアの活用者でもある「コミュニティ・ジャーナリスト」への聞き取り、およびメディアと深い関わりを持つ受け手、すなわち「メディア・サポーター」への聞き取りを実施。

とりわけ については、在外ブラジル人のメディアに関する信頼性の高いデータが存在しなかったため、まず、日米欧におけるブラジル系メディアの基礎データを収集し、比較分析した。主として米国、日本、英国、豪州のメディアを考察したが、これは異なる時代に海外へ離散したブラジル人とそのメディアを比較する上でも有意義だと考えたからである。

米国は 1980 年代頃からブラジルを去った人々が向かった最初のエルドラドであった。日本は出入国管理および難民認定法の改正後の 1990 年代に日系を中心としたブラジル出身の移民流入のブームが起こった。英国や豪州への流入は日本と同時期の 1990 年代に顕著になり、2001 年の 9.11 事件以降、米国への入国が困難になったために新たなエルドラドとしての地位を確立した。以上のとおり、日本より歴史が古い米国でのブラジル系メディアと、日本より歴史が浅い英国や豪州でのブラジル系メディアとの比較により、在日ブラジル人のメディアをめぐる様々な課題が相対化できると考えられた。

4. 研究成果

本研究の最大の成果は、これまで基礎データが揃っていなかった在外ブラジル系メディア、なかでもとりわけ印刷媒体の実態が把握できた点である。米国においてブラジル系メディアが多いという点が確認できたが、これはブラジル移民の多さを鑑みれば、予想できなかった。むしろ大きな発見だったのは、英国において多数のブラジル系メディアが存在していることである。これは、英国在住のブラジル人が政府による推計よりも多いことを示唆しているかもしれない。豪州においては、我々の研究期間中に印刷媒体の成長と衰退を追跡することができた。日本のブラジル系メディアは新聞がすべて廃刊となったという意味では米国や英国に比べて衰退しているが、フリーマガジンが依然として商業誌として旺盛という意味では豪州に勝っている。各論としては、たとえばスペインのブラジル系雑誌がポルトガルへの進出を試

みるというトランスナショナルな戦略など、欧州ならではのメディア・アントレプレナーの戦略も興味深かった。いずれにしても、在日ブラジル人の「エスニック・メディア」を「在外ブラジル系ディアスポラ」の一員、すなわち「ディアスポリック・メディア」として位置づけて再考したという点において、我々は未開拓の分野を切り開いたといえよう。ところで、最も目立った傾向の一つは、媒体の創刊や廃刊が想像以上に激しかったということである。そこで、印刷物としての「総目録」を発行してもデータの有効性が短命になり兼ねないという点を考慮し、我々が収集した基礎データは更新が可能なウェブでの公開がより有効だと考え、準備中である。他方、ブラジルの日系メディアについて特筆すべき成果としては、最も発行部数が伸びているといわれるポルトガル語主体の雑誌 *Revista Mundo OK* の編集長、そして沖縄系移民の新聞 *Uchiná News* の社長および編集長等への聞き取りができたことである。前者は移民の若い世代に支持されている点が興味深く、後者は「日系」コミュニティの中でも独自の文化活動が際立つ沖縄系の人々のアイデンティティを解説する貴重な手がかりとなり得る。

当初の計画で掲げたとおり、メディアの送り手のみならず、限定的ながらも利用者の研究にも着手できた。日系ブラジル人集住地から文化的架橋者と目される「メディア・サポーター」5人を選び、長時間におよぶグループインタビューを実施し、メディアの「評論」に止まらず、その改善に向けた「提言」も抽出できた。

社会への還元を兼ねた研究活動として特筆すべき試みは、武蔵大学を会場に、我々が在外ブラジル人による第一回 Video Fest を共催したことである。これは日英米など各国に在住するブラジル系の映像作家による作品を上映する国際ビデオ祭であり、日本で開催されたのは初めてのことである。

他方、各国に離散している在外ブラジル系作家による初の世界大会（於：ロンドン）を参与観察できたのも大きな収穫である。ビデオ祭にせよ作家大会にせよ、在外ブラジル人のトランスナショナルなネットワーキングにまつわるイベントの「第一回」を研究できるという幸運に恵まれた。

以上のような成果を日本語のみならず、ポルトガル語や英語での国際学会や国際シンポジウムにおいて公表した。とりわけポルトガル語でも発表・執筆したことにより、我々のデータやその分析の妥当性を当事者（ブラジル移民やブラジル系メディア関係者）が検証できる手だてとなった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

イシ アンジェロ、「在日ブラジル系メディアに明日はあるのか」 *Migrants Network*、査読無、176巻、2015年、8-9。

白水繁彦、「在日外国人とメディア ～ブラジル人架橋アクターの語りとメディアのあり方」、 *Journal of Global Media Studies*、査読無、15巻、2015年、1-18。

ISHI, Angelo. What was not reported - How the "Centenary of Japanese immigration to Brazil" was covered by the Japanese mass media. *International Journal of Global Diaspora Studies (Online magazine)*、査読有り、Vol. 1, No. 1, 2015年、27-40。

白水繁彦、「在日エスニック・メディアのこれまでとこれから」、査読無、 *Migrants Network* 176巻、2015年、3-5。

イシ アンジェロ、「「伯流」というゴールに向けて - パスをつなぐのは在日ブラジル人」、『*外交*』、査読無、25巻、2014年、74-77。

イシ アンジェロ、「在日とは何か ～ブラジル人の場合」、『*植民地文化研究資料と分析*』、査読無、13巻、2014年、26-33。

〔学会発表〕（計14件）

ISHI, Angelo. Creating a "diaspora" -- Transnational events and media by Brazilian migrants in US, Europe and Japan. *European Sociological Association (ESA) 12th Conference*, 2015年8月27日、Czech Technical University, Prague (Czech Republic)

ISHI, Angelo. *Mídia e Literatura dos Brasileiros no Japão*、*Japão: Identidades que se cruzam - Passado, Presente e Futuro*, 2015年5月30日、東京外国語大学（東京都・三鷹市）

イシ アンジェロ、「震災をめぐる在日ブラジル人の動向 ～メディアとボランティアを中心に」東京都国際交流団体連絡会議研修会、2015年3月11日、国際交流基金（東京都・新宿区）

ISHI, Angelo. A comparative study of Brazilian diasporic media in Japan and in other countries: Preliminary findings、*International Workshop - Japan's New immigrants: Capturing the changing ethno-scape in a globalizing society*、2015年2月13日、早稲田大学（東京都・新宿区）

白水繁彦、「エスニシティとメディア研究 昨日・今日・明日」日本学術振興会

およびFAPESP共催「日ブラジル学術協力シンポジウム」マイグレーション研究会10付き例会、2014年10月14日、大阪商業大学(大阪府・東大阪市)

白水繁彦、「大会企画シンポジウム報告 移民・エスニック集団『比較』研究のマトリクス」、日本移民学会第24回年次大会、2014年6月28日、和歌山大学(和歌山県・和歌山市)

イシ アンジェロ(企画および趣旨説明)、白水繁彦(司会)、開催校企画シンポジウム「移民アーティストの可能性」、日本移民学会2013年度年次大会、2013年6月30日、武蔵大学(東京都・練馬区)

イシ アンジェロ、「在日ブラジル系メディアの衰退と文学の夜明け」、新大陸の日系移民の歴史と文化共同研究会、2013年4月13日、国際日本文化研究センター(京都府・京都市)

ISHI, Angelo. A alvorada de uma literatura brasileira no Japão, 1º Encontro Mundial de Escritores Brasileiros no Exterior, 2013年9月20日、在ロンドンブラジル大使館、London (United Kingdom)

ISHI, Angelo. Brasileiros no Japão e brasileiros no mundo - O papel da mídia e dos eventos comunitários. Asociación Latinoamericana de Estudios de Asia y Africa (ALADAA). 2013年8月14日、ラプラタ国立大学、La Plata (Argentine)

ISHI, Angelo. The Japanese-Brazilian community in Japan and the "Brazilian diaspora" in the world. 日本学術振興会およびFAPESP共催「日ブラジル学術協力シンポジウム」、2013年3月15日、立教大学(東京都・豊島区)

ISHI, Angelo. 2012 Chang Po-Go International Conference - Maritime Activities in East Asia and Global Diaspora. 2012年11月5日、Chang Po-Go Memorial Hall, Wando (South Korea).

ISHI, Angelo. Japanese-Brazilians or Brazilian expatriates? Brazilians in Japan in the context of the new 'Brazilian diaspora'. 3rd Global COE-SRC Border Studies - "Borders in Asia: Central Asia, Southeast Asia, Korea and Japan." 2012年8月1日、北海道大学(北海道・札幌市)

イシ アンジェロ、「在外ブラジル人としての在日ブラジル人」、「人の移動と21世紀グローバル社会」統括国際学会、2012年5月20日、琉球大学(沖縄県・那覇市)。

〔図書〕(計11件)

イシ アンジェロ、「デカセギ文学の旗手でもなく、在日ブラジル人作家でもなく ~ 日系ブラジル人のマルチクリエイター、シルヴィオ・サム」細川周平編『日系文化論を編みなおす: 歴史・文芸・コミュニティ』(仮)、ミネルヴァ書房、2016年9月発行予定。

白水繁彦・鈴木啓編(2016)『ハワイ日系社会物語(仮)』御茶の水書房、2016年9月刊予定。

イシ アンジェロ、「ブラジルから考えるトランスナショナリズム」、西原和久、樽本英樹編『現代人の国際社会学・入門』有斐閣、2016年5月、222-240。

イシ アンジェロ、「ジョアン・トシエイ・マスコ - 第二の故郷で挑戦する日系ブラジル人」杉田敦編『ひとびとの精神史 第7巻 終焉する昭和 1980年代』岩波書店、2016年2月、119-144。

イシ アンジェロ、「三・一一から考える在日ブラジル人の災ノ生」天田城介、渡辺 克典編著『大震災の生存学』青弓社、2015年11月、167-187。

イシ アンジェロ、「在日ブラジル人の文化活動」、ブラジル日本商工会議所編『現代ブラジル事典』新評論、2016年3月、37-38。

白水繁彦編著、『ハワイにおけるアイデンティティ表象: 多文化社会の語り・踊り・祭り』、御茶の水書房、2015年。

小田原敏、イシ アンジェロ編著、『マスコミュニケーションの新時代』、北樹出版、2014年。

白水繁彦、「グローバリゼーションのなかのエスニック・メディア」、吉原和男編『人の移動事典』丸善出版、2013年、324-325。

イシ アンジェロ、「移民メディア学の方法と課題」、吉原和男編『人の移動事典』丸善出版、2013年、330-331。

イシ アンジェロ、「エスニック・メディアの担い手たち - 在日ブラジル系メディアの興亡」、樋口直人編『日本のエスニック・ビジネス』、2012年、世界思想社、133-157。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

イシ アンジェロ (ISHI, Angelo)

武蔵大学・社会学部・教授

研究者番号: 20386353

(2)研究分担者

白水 繁彦 (SHIRAMIZU, Shigehiko)

駒澤大学・グローバル・メディア・スタ
ーズ学部・教授

研究者番号: 80095942